

この度の平成28年熊本地震により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

今月号の特集では、鉄道総研が産み出した鉄道技術の一端を開発ストーリーとして紹介しています。鉄道総研から生まれ出た鉄道技術は52年前に営業を開始した新幹線をはじめ、数多く存在します。これらはいずれの技術も「九転十起」(広岡浅子の座右の銘)の精神で、研究者がたゆまぬ研究開発を進め、その成果を実用化させるべく努力を続けた賜物です。

これらの技術は鉄道の世界だけではなく、広く社会で利用さ

れ、海外で実施された技術もあります。いずれの技術も現在も引き続き研究開発が行われています。より高い安全性・快適性を追求し、世代を超えて、さらなる改良あるいは応用技術の開発に挑戦しています。研究開発へのこの継続的な取り組みが鉄道総研の何よりの力になっていると考えています。

来月号の特集では気象災害から鉄道を守る鉄道技術について紹介する予定です。温暖化の影響もあり、最近の気象災害は甚大化する傾向にあります。鉄道総研ではレーダー技術、シミュレーション技術、新たな診断方法を駆使して、鉄道を守るために研究を進めています。どうかご期待ください。(S.H.)

■2016年5月号の訂正とお詫び

RRR誌2016年5月号に誤植がございました。ここに訂正してお詫び申し上げます。

頁	記事	箇所	誤	正
5	日本の鉄道技術の海外展開	左段1～2行目	断面積は64m <sup>2</sup> (他国の場合70～100m <sup>2</sup> )	断面積は80m <sup>2</sup> (他国の場合約100m <sup>2</sup> )
		中段1～2行目	(株)オリエンタルコンサルタンツ(以下OCと記載します)	(株)オリエンタルコンサルタンツ(以下OCと記載します。ただし、担当部署は現在(株)オリエンタルコンサルタンツグローバルとして独立)